

島根県剣道連盟

—— これまでのあゆみ

島根県剣道連盟は、昭和27年10月の全日本剣道連盟設立を機に、翌昭和28年4月に前身である「島根県撓(しな)い) 競技連盟」を改称・設立した。昭和29年には島根県体育協会に加盟している。

設立と同時に、県内各市・郡でも地区剣道連盟が設立され、平成の大合併後に現在の12地区に警察、教職員、刑務官、社会人、道場連盟を加えた組織となり、現在に至っている。昭和28年に「第1回島根県段別剣道選手権大会兼全日本剣道選手権島根県予選」が、昭和29年には「第1回職域剣道大会」が開催され、今も歴史を重ね続けている。また、各地区でも大会は盛大に開催されるようになり、その多くは地区の剣道の発展とともに現在も引き継がれている。

昇段級位審査も、県主催による四・五段審査を年2回、各地区では三段以下の段級位審査を年2回実施し、剣道の発展に努めている。剣道は戦後禁止された経緯があるが、多くの愛好家の思いと努力により、現在に至っている日本の伝統文化である。



明治44年2月、松江城二の丸内に竣工された武徳殿。広さ約83坪で昭和40年頃まで武道の中心的道場として存在していた。

—— 現在の状況

1. 全国大会開催

島根県は全国的には小規模県だが、平成26年9月21日、全国から選抜された「心技体」とともに円熟した選手が一堂に会する、日本剣道界最高峰の大会である「第60回全日本東西対抗剣道大会」を島根県立浜山体育館で開催した。また、令和5年8月10日、全国を代表する教職員の最高大会である「全国教職員剣道大会」を松江市総合体育館で開催した。両大会とも関

係者並びに県内剣道会員の協力により、成功裏に終わることができた。この経験は島根県剣道連盟として、大きな自信と財産となった。

2. 全国大会での活躍

令和4、5年は全国高等学校総合体育大会男子個人戦で2年連続3位、令和5年には男子団体戦も3位入賞、国民体育大会では男・女少年が本戦に出場、女子は2年連続、男子は5位入賞を果たした。また、全国高等専門学校大会でも松江工業高等専門学校が令和4、5年に男子団体に優勝し2連覇を達成している。さらに、先の全国教職員剣道大会でも、団体の部で2年連続準優勝、女子個人でも3位入賞を果たすなど、2030年島根かみあり国スポに向け、好成績を上げている。

—— これから

1. 人口減少対策

剣道人口減少対策は喫緊の課題である。剣道の魅力を広報・啓発し、生涯剣道に繋がるように啓発活動に努めるとともに、各地区、組織での長期、短期両面での実効性ある計画と対策を支援し、剣道人口の確保、育成、拡充に努めることとしている。

2. ガバナンス

コンプライアンスの確立は、各競技団体も同じく、連盟の発展に必要不可欠である。剣道の理念である「剣の理法の修練による人間形成の道」を実践するためにも、この種の事案を絶対に出さないための指導・教育に努めることとしている。

3. 選手の強化

2030年島根かみあり国スポでの島根県総合優勝に貢献するため、剣道競技総合優勝を目指して、選手の強化に努めていく。



スポーツ・レクリエーション祭